

『續・禹域遊吟』 其の十二

山西南部周遊の後、北京にての別離宴席上詠じたる作。

晉南遊行 しんなんいうかう

晉國風光三萬里 晉國の風光三萬里

吟箒南北一旬天 吟箒南北一旬の天

樓頭絶唱仰詩客 樓頭の絶唱に詩客を仰ぎ

關裡遺經思老仙 關裡的遺經に老仙を思ふ

河水曲邊鐵牛出 河水曲る邊り鐵牛出で

草原盡處玉蟾圓 草原盡くる處 玉蟾圓なり

含杯相和栢梁句 杯を含み相和す栢梁の句

忘億忘歸意快然 億^{つか}るるを忘れ歸るを忘れ意快然たり

〔先〕

○平成二十二年五月三日作

*晉 山西省の古稱。

*吟箒 詩人の杖。

*詩客 王之渙を謂ふ。

*老仙 老子を謂ふ。

*玉蟾 月を謂ふ。旅中満月に遭ふ。

*栢梁句 栢梁體の聯句を謂ふ。

